

災害視察研修「宮川地区を訪ねる」

粥見住民協議会発行



H25.3.31 発行

●研修会参加者●

住民協議会役員、職員等11名
上郷地区10名 下郷地区8名
向粥見地区15名 参加者合計41名



(山崩れの被害が残る山肌
滝谷の里公園より)

去る3月9日(土) 防災研修会災害地視察として、住民協議会役員他、粥見地域各自治会より住民の方に参加いただき大台町(旧宮川村)への防災研修会を開催しました。
大台町(旧宮川村)は平成十六年の台風二十一号で甚大な被害を受けた地域であります。当時の町防災担当職員、消防本部職員、滝谷区長の体験談等、生の声を聞くことで、ここ粥見住民協議会管内で災害が発生した場合の対処や備え、災害に対する意識の向上を図ることを目的としました。

宮川地区の被害から学ぶ
被害はこうして広がった

29日深夜 雨が降り続き夜が明けると異変はなし。

台風21号が近付いてきた平成16年9月28日22時 大雨洪水警報が発令され災害警戒本部を設置

29日9時 雨足が強まり各地から土のうや人員の要請が殺到する。
10時 小滝、栗谷地区に避難勧告

【被害の概要】

死者7名 行方不明者1名 重傷2名
全壊27戸 半壊21戸 浸水97戸
復旧に要した被害 約220億円

【領内地域】がけ崩れ、土石流など、土砂災害が多発。多数の家屋被害と人的被害が発生。
【大杉谷地域】被害通報はなし→通信・交通の断絶のため通報ができない。完全孤立7日間
・家屋被害は大杉谷地域に集中したが、日ごろから周辺の状態を把握し協力して早期に避難したため人的被害はなかった。
(防災ヘリによる搬送。仮設パイプによる山水の利用。炊き出し、仮設風呂の設置。)



- ・無防備な体制
- ・経験のない緊急事態
- ・険しい地形のため安全な避難場所がない
- ・至るところで災害が一度に発生

貴重なお話を聞くことができました



滝谷の里公園に慰霊碑を建てて

幸せの黄色いレシートキャンペーン

粥見住民協議会に投函いただきました黄色いレシートの総額は1,23,685円でした！
レシート金額の1% 10,500円分を住民協議会で使わせていただけることになりました。
ご協力いただきありがとうございました！



毎月11日 ミセススマート粥見店にて

・清算時に受け取った黄色いレシートを「粥見住民協議会」のボックスに投函してください。

【編集後記】

平素は粥見住民協議会にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。住民協議会は区や組といった枠にとわかれず活動する組織です。これからも粥見地区全体が「住みよい地域」となるよう地域の皆様と共に歩んでいきたいと思っております。

視察を終えて・・・
課題と教訓

もともと多雨地域であり、過去に災害がなかったため「雨に強い」という意識から
・準備不足 ・危機感の欠落
→ 避難の遅れにつながった

自助、共助、公助の精神で皆ができることを分担し犠牲を出さない
防災体制を築くことが必要。

- ・意識の向上 ・体制の徹底
- ・情報収集体制・通信手段の確保
- ・避難勧告発令の基準
- ・情報提供体制
- ・自主防災体制の強化

- ・安全意識の破棄
- ・早期の避難
- ・空振りを恐れず

★日ごろから周辺の状況を把握しよう！
★近所同士の連携、信頼関係を大切に・・・

